

平成13年 6月19日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田 良一

21世紀最初の皆既日食を高画質画像で生中継
～伝送ソフトウェアを広島大学が開発～

このことについて、別紙のとおり実施しますので、お知らせします。

【お問い合わせ先】

広島大学情報メディア教育センター
相原 怜二

TEL: (0824) 24-6258

(ダイヤルイン)

E-mail: ray@hiroshima-u.ac.jp

[発信枚数; A4版 15枚(本票含む)]

○[概要](#)

連絡先: 広島大学情報メディア教育研究センター
相原 怜二
TEL: 0824-24-6258 FAX: 0824-22-7043
E-mail: ray@hiroshima-u.ac.jp

2001年6月19日

報道関係各位

21世紀最初の皆既日食を高品質画像で生中継
～伝送ソフトウェアを広島大学が開発～

広島大学(牟田泰三学長)は、同大学情報メディア教育センターにおいて研究開発中の動画像伝送ソフトウェアを用い、来る6月21日にアフリカ南部で起こる皆既日食の模様を、高速実験ネットワーク上で生中継実験を行います。

本実験は、ライブ！エクリプス実行委員会および特定非営利活動法人中国・四国インターネット協議会などの協力により、アフリカから送られてくる高画質映像(テレビ品質)を、通信・放送機構ギガビットネットワークを利用して広島大学へ転送し、今回新たに開発した画像転送ソフトウェアを利用して、広島市内の小中学校および全国各地(仙台、富山、東京、山梨、岐阜、京都、高知、福岡、佐賀など)へ、高画質映像のまま同時に伝送するものです。

ライブ！エクリプス実行委員会の皆既日食中継計画については、「[参考資料1](#)」
および <http://www.live-eclipse.org/> を参照して下さい。
特定非営利活動法人中国・四国インターネット協議会の中継実験については、
「[参考資料2](#)」
および <http://www.csi.ad.jp/activity/MAMEdeGansu/> を参照して下さい。

◆高品質映像の伝送

今回の実験は、ライブ！エクリプス実行委員会が作成し、インターネットへ送信する前の映像を、ブロードバンドネットワークを前提とした高品質映像伝送方式により、毎秒10メガビット以上の伝送速度を持つ実験ネットワークを利用して、広島市内の小中学校や、ギガビットネットワークへ接続した実験参加場所へ配信を行います。現在のインターネットを経由した映像は、テレビと比較して画質・音声が劣りますが、今回使用する方式では通常のテレビ品質の動画像および音声を、インターネットと同じ仕組みにより伝送することができます。

◆高速通信回線を使用

ライブ！エクリプス実行委員会は高速の衛星回線を使用して、アフリカから東京へ画像を送信します。東京からの映像および音声は、通信・放送機構ギガビットネットワークを用いて広島大学へ、さらに広島県情報トライアングル実験回線などを経て広島市内の小中学校へ届けられます。同時に、小中学校の模様をギガビットネットワーク上の全国各地の実験参加場所へ届けられます。いずれも光ファイバを用いた高速の実験回線を使用します。

◆新しい伝送ソフトウェアの開発

今回実験に使用する映像・音楽配信の圧縮方式は MPEG2 と呼ばれ、BS デジタル放送や CS 放送で用いられています。MPEG2 方式で圧縮されたデジタル情報を、広島大学情報メディア教育研究センターが独自に開発した伝送ソフトウェアを用いて送受信します。インターネット上では、通信混雑などの原因によりある程度の伝送情報損失が避けられませんが、今回開発したソフトウェアの特徴は、一定の情報損失を回復する機能を備えていることであり、会場では最先端のインターネット利用技術を体験することができます。なお、本伝送ソフトウェアは、日本学術振興会インターネット技術第163委員会の支援により開発されたものです。

●協力団体等

ライブ！エクリプス実行委員会

特定非営利活動法人 中国・四国インターネット協議会(CSI)

日本学術振興会 インターネット技術第163委員会(ITRC)

●用語解説

【参考資料1】

2001年6月12日

報道関係各位

21世紀最初の皆既日食を
アフリカからインターネットで三元中継
～LIVE! ECLIPSE 2001～

ライブ!エクリプス実行委員会

ライブ!エクリプス実行委員会(実行委員長:尾久土正己 みさと天文台台長)は、6月21日にアフリカ南部で起こる皆既日食を「LIVE! ECLIPSE 2001」としてインターネットを用いて中継します。皆既日食とは太陽が月に完全に隠される天文現象のことです。太陽の周りに見える放射状の光(コロナ)などの幻想的な光景が見どころです。

当委員会はアフリカのザンビア、ジンバブエ、マダガスカルの3カ国に観測隊を派遣。3カ所からの映像をリアルタイムで編集して1本の映像として放映します。放映時刻は6月21日、日本時間の20時35分から22時35分にかけての予定です、アドレスは <http://www.live-eclipse.org/> です。

皆既日食が観測できる時刻と場所は非常に限られており、日本の近くで見られたのは1988年の小笠原沖、日本の陸地で最後に観測されたのは1963年の礼文島にさかのぼります。日本での皆既日食は2009年まで見ることはできません。インターネットを用いてこうしたまれな天体現象を中継することにより、今回の皆既日食を見られない日本のみならず、世界の方々に皆既日食という天文現象のすばらしさを体験していただくことができます。

◎今回の中継の特徴

当委員会はこれまで皆既日食を3回、金環日食および皆既月食をそれぞれ2回ずつインターネットでライブ中継してきました。また、しし座流星群も姉妹団体ライブ!レオニズ実行委員会として同様に中継しています。これらの天文現象を合わせて10回目となる今回のLIVE! ECLIPSE 2001では、次のような新しい取り組みを企画しています。

●望遠から魚眼レンズの複数カメラによる中継

それぞれの中継地点に複数台のビデオカメラを持ち込み、現地で映像を切り替えて送信します。太陽全体の画像だけでなく、太陽の黒点が月に隠れていく様子や、皆既日食の最中のプロミネンス(太陽から吹き出す赤い炎)、観測地の風景、魚眼レンズによる月の影が西から東に移動していく様子などの映像をお届けする予定です。

●観測地からのライブ演奏

LIVE! ECLIPSE 2001のテーマ曲としてオリジナル曲「Mirabilia」が作られました。演奏はヒーリング・ジャズ・グループ「トラペジウム」です。トラペジウムの一部メンバーは観測地のひとつジンバブエに同行し、皆既日食終了後現地で生演奏を行い、その模様もインターネットで中継します。詳細は [別紙](#) をご参照下さい。

●遠隔講義

観測地のひとつザンビアと遠隔講義の一部参加校、科学技術館の間でインターネットを使ってテレビ電話システムを用いて、皆既日食の前後に質疑応答を行います。日本での参加者は、ライブ画像を見るだけでなく、より深く日食を経験することができるでしょう。

●ブロードバンド時代の“ショーケース”

ケーブルテレビ(CATV)によるインターネットやADSLといった高速回線の急速な普及により、より高画質なインターネット放送へのニーズが高まってきました。LIVE! ECLIPSE は以前から超高速研究用ネットワーク(ジャパン・ギガビット・ネットワーク)やIPバージョン6による動画伝送などの先端的な取り組みを行ってきました。今回の中継では、ブロードバンド時代の“ショーケース”という位置付けを鮮明にして、インターネット放送の先端技術を持っている企業、研究機関のご協力を仰いで、様々な先駆的な中継を行います。LIVE! ECLIPSE はボランティア・ベースで運営するイベントであるため、こうした各種企業、研究機関が参加しやすくなっています。

●テレビ衛星中継車を用いてアフリカから伝送

ブロードバンドに対応したインターネット放送を行うためには、これまで以上にビデオの画質に気を配る必要があります。LIVE! ECLIPSE のインターネット放送の基本パターンは、各観測地からの動画像をいったん東京のエンコーディング&ネットワーク・オペレーション・センター(ENOC)に集めます。その画像を加工した後、世界に向けてインターネットで配信します。

画像をENOCに集める部分では、アフリカからENOCまで大容量の回線をいかに確保するかという問題があります。中継地のひとつジンバブエからは三菱電機株式会社のご支援を受けて、テレビ用の衛星中継車を用いて動画像を日本まで送り届けます。

●最寄りのサーバからユーザに配信

大規模な中継は、1か所のサーバからの配信ではネットワークが破綻してしまいます。LIVE! ECLIPSE 2001 では、前回の皆既月食中継に引き続いて、最寄りのサーバからユーザに配信できるような仕組み(広域負荷分散技術)を導入します。今回はストリームサーバだけでなくWebサーバについても広域負荷分散技術を適用します。具体的にはTENBINとRADIXという技術を用います。LIVE! ECLIPSE2001にはそれぞれの技術の開発者が参加し技術協力しています。

さらに、各サイトでは各種ロードバランサーやクラスタリング技術を導入。高負荷が想定されるピーク時のアクセスに備えています。

●複数のコンテンツ配信サービス事業者に配信

ブロードバンド時代に対応して、いくつもの企業がコンテンツ配信サービスに参入してきています。LIVE! ECLIPSE では複数のコンテンツ配信サービス事業者のご協力を得て、世界規模でスムーズに動画を見ていただけるようなネットワークを構築します。ストリーミングの同時アクセスは、ピーク時2Gビット/秒を想定しています。

◎以前からの特徴

上記のほか、LIVE! ECLIPSE 2001 では今までと同様に下記のような特徴をもった中継を行います。

●手作りの中継

ボランティア・ベースでの活動で、手弁当でプロジェクトを運営しています。天文ファンのみならず、ネットワーク・エンジニア、学生など幅広いメンバーの活躍で支えられています。

●英語版も用意

英語のページも用意しています。日食は国境を越えたコンテンツであるがゆえに海外からのアクセスも多数あります。

●複数地点からの中継

万が一、天気が悪くなったり、通信トラブルが発生した場合に備えて前述のように3カ所から中継を行ってリスクを低減します。

●テロップなどを入れて放映

3つの観測地点からの映像を順次切り替えてそのまま流すのではなく、複数地点の太陽像を1画面に表示して、太陽の欠け方の違いを見比べたり、テロップを入れたりします。

●複数のストリーム方式による中継

RealSystem(r), Window Media(tm), QuickTime(r)などで中継を行います。視聴者がお持ちのソフトに合わせて、様々な方式でライブ放送を見ていただくことができます。

●学術論文

LIVE! ECLIPSE での活動を元に複数の学術論文が情報処理学会などで発表されています。単なる中継イベントではなく、研究者にとっては研究データを集めるための場所としても利用されているのです。

◎6月21日の皆既日食について

●皆既日食とは

皆既日食とは、太陽、月、地球が一直線に並ぶことにより、太陽が月に完全に隠される現象のことです。太陽が月に完全に隠されると、太陽の周りに真珠色に輝く光「コロナ」や漆黒の空に指輪の形に太陽の光が輝く「ダイヤモンドリング」と呼ばれる幻想的で美しい現象が見られます。このとき太陽の活動状況によっては、大きなプロミネンス(太陽から飛び出す高温のガス)も見ることができます。

●皆既日食のおこる日時

それぞれでの観測地の日食の時刻は以下の通りです。いずれも日本標準時です。

	欠け初め	皆既始	皆既終	欠け終り
ザンビア(ルサカ)	20:40	22:09	22:12	23:27
ジンバブエ(ニヤマパンダ)	20:52	22:15	22:18	23:29
マダガスカル(ラノヒラ)	21:14	22:26	22:29	日没後

それぞれの観測地点での皆既継続時間(太陽が完全に隠れている時間)は2分ほどで、平均的な長さの皆既日食と言えます。

●皆既日食が見えるエリア

皆既日食は陸上ではアフリカ南部アンゴラからマダガスカル島にかけての狭い地域で観測できます。また太陽が完全に隠れない部分日食としては、陸上ではアフリカのマリ、ニジェール、チャド、スーダン、エチオピアから南の地域ならびにブラジル、アルゼンチンなどの南米諸国で見られます。

◎ライブ中継について

●中継地点

皆既日食が見られるアフリカの3カ国から中継します。月の影が移動していく西から順にザンビアの首都ルサカ、ジンバブエのニヤマパンダ、マダガスカルのラノヒラの3カ所です。

●中継の見せ方

4分割画面で3カ所の大陽像を同時に見せる画面を基本としながら、注目シーンでは1つの映像だけを流します。また現地から予め送られた映像も送ります。

●必要なソフト

RealPlayer8 または Windows Media Player7、QuickTime Player5 のいずれかが必要です。

◎協力企業・団体一覧

LIVE! ECLIPSE 2001 は以下のような多数の企業、団体、個人によって支えられています。ご協力に感謝します。

●撮影協力

協栄産業株式会社、通信総合研究所、日本通信機株式会社、フロンティア・ツアー、みさと天文台、三菱電機株式会社、明星大学

●遠隔講義協力

沖電気工業株式会社、科学技術館、KANMON Project、九州ギガポッププロジェクト、特定非営利活動法人 中国・四国インターネット協議会、広島市立大学、広島大学

●集信協力

科学技術館、通信総合研究所、三菱電機株式会社

●エンコーディング協力

株式会社アイアイジェイメディアコミュニケーションズ(IIJ-MC)、株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)、インターネットマルチフィード株式会社、インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス株式会社、九州ギガポッププロジェクト、九州大学、倉敷芸術科学大学、KDDI株式会社、株式会社創夢、通信総合研究所、日本大学総合学術情報センター、FouUs

●ネットワーク機器、技術協力

エスシー・コムテクス株式会社、ネットワンシステムズ株式会社、シスコシステムズ株式会社、日本ネットワーク・アライアンス株式会社、日本ヒューレット・パカード株式会社、丸紅ソリューション株式会社

●映像編集協力

日本大学総合学術情報センター

●ストリーム配信協力

株式会社アイアイジェイメディアコミュニケーションズ(IIJ-MC)、アクセリア株式会社、アバヴネットジャパン株式会社、株式会社Jストリーム、株式会社電通国際情報サービス、株式会社PoD(プロデュース・オン・デマンド)

●Webホスティング協力

アバヴネットジャパン株式会社、株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)、サイバー関西プロジェクト、東京大学

●コンテンツ作成協力

倉敷芸術科学大学、国立天文台、James Fowler 氏、蛭田 直氏、和歌山大学

●音楽協力

ビクターエンターテインメント株式会社、Lyra Records

●アンケート協力

国立天文台、佐賀大学理工学部知能情報システム学科、佐賀大学理工学部ベンチャービジネス支援先端技術講座、株式会社ネットマイル

●特別協力

情報通信月間協議会(総務省)、Streams-JP Mailing List、SUBARU すばるアストロ総合ステーション(三菱電機インパクトサイト)、天網の会、bunji.tv

◎ライブ!エクリプス実行委員会について

ライブ!エクリプス実行委員会は、アマチュア天文家や天文学者、天文台関係者、SOHOワーカー、ネットワークエンジニア、学生をはじめとする大勢の個人ボランティアがインターネットを主なコミュニケーション手段として運営する非営利団体です。実行委員長は、インターネットを利用した天文普及プログラムで実績のある和歌山県のみさと天文台の天文台長尾久土正己が務めています。

当委員会は、1997年3月の皆既日食の世界初のインターネット多地点中継を皮切りに、これまで7回にわたって皆既日食と金環日食、皆既月食のインターネット中継を手がけてきました。また姉妹プロジェクトとして、しし座流星群のインターネット中継も1998年と1999年の11月に実施しており、これを合わせると過去9回のインターネット中継実績があります。最新のインターネット技術を駆使したユニークなプログラムの展開により、いずれも世界100ヶ国前後から多くのアクセスを獲得し、天文イベントのインターネット中継で着実に実績を積んでいます。

◎報道関係お問い合わせ先

ライブ!エクリプス実行委員会 広報窓口

〒182-0001 調布市緑ヶ丘 2-44-5-103

広報担当 石川慶子

TEL:02-5384-7587 FAX:03-5384-7586 PHS:070-5990-9194

E-mail: press@live-eclipse.org

以上

【参考資料2】

2001年6月18日

報道関係各位

※本件について6月21日以前の報道はご遠慮下さい。

21世紀最初の皆既日食を実験ネットワークで生中継
～広島市内の小学校で受信～特定非営利活動法人
中国・四国インターネット協議会
<http://www.csi.ad.jp/>

特定非営利活動法人中国・四国インターネット協議会(理事長 吉田典可 広島市立大学情報科学部教授)は、ライブ!エクリプス実行委員会の協力を得て、6月21日にアフリカ南部で起こる皆既日食の模様を実験ネットワークを用いて中継します。アフリカから送られてくる高画質映像(テレビ品質)を、通信・放送機構ギガビットネットワークなど、実験ブロードバンドネットワークを用いて送信し、広島市内の小学校などで受信します。

※ライブ!エクリプス実行委員会の皆既日食中継計画については、「[参考資料1](#)」および<http://www.live-eclipse.org/>を参照して下さい。

ライブ!エクリプス実行委員会は、今回アフリカのザンビア、ジンバブエ、マダガスカルの3カ国に観測隊を派遣。3か所からの映像をリアルタイムで編集して1本の映像としてインターネットへ生中継します。放映時刻は6月21日、日本時間の20時35分から22時35分にかけてです。

◆小学校での受信実験

今回は中継映像を広島市内の小学校など6ヶ所で受信し、各会場に集まった多数の小学生および保護者が、皆既日食の模様をリアルタイムに観測する計画です。この観測会を行う会場校は、当協議会が今年度実施する「広島地域の学校における高度マルチメディア通信に関する研究」(略称: マメ de がんすプロジェクト)に参加している小学校など(11ヶ所)の一部です。本プロジェクトは、広島市立大学、NTT西日本などの協力を得て、当協議会が実施中のもので、その概要は、<http://www.csi.ad.jp/activity/MAMEdeGansu/>をご参照下さい。

◆高品質画像を使用

当協議会が行う実験は、ライブ!エクリプス実行委員会が作成し、インターネットへ送信する前の映像を、ブロードバンドネットワークを前提とした高品質画像伝送方式により、毎秒10メガビット以上の伝送速度を持つ実験ネットワークを利用して、広島市内の小学校など本実験参加場所へ映像配信を行います。現在のインターネットを経由した映像は、テレビと比較して画質・音声が劣りますが、今回使用する方式では通常のテレビ品質の動画像および音声を、インターネットと同じ仕組みにより伝送することができます。今後ブロードバンドネットワークが爆発的に普及するための鍵であると言われていています。会場では、高品質映像をインターネットを経由した映像との比較実験も予定されています。

◆新しい伝送ソフトウェアの開発

今回実験に使用する映像・音声配信の圧縮方式は MPEG2 と呼ばれ、BS デジタル放送や CS 放送で用いられています。MPEG2方式で圧縮されたデジタル情報を、当協議会の会員である広島大学が独自に開発した伝送ソフトウェアを用いて送受信します。インターネット上では、通信混雑などの原因によりある程度の伝送情報損失が避けられませんが、今回開発したソフトウェアの特長は、一定の情報損失を回復する機能を備えていることであり、会場では最先端のインターネット利用技術を体験することができます。

●本件の報道について
今回会場となる小学校名を含む場合、6月21日以前の報道はご遠慮願います。
(ライブ!エクリプスの活動の紹介等については、その限りではありません。)また、会場の当日取材には、必ず事前の申し込みが必要です。以下へお問合せ下さい。

●本件に関する問合せ先
前田 香織
広島市立大学 情報処理センター
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1
TEL: 082-830-1655 FAX: 082-830-1511
E-mail: kaori@ipc.hiroshima-u.ac.jp

●取材可能場所と当日の参加予定人数

名称	参加予定者数(概算)
広島市立井口明神小学校	300人
広島市立河内小学校	100人
広島市立白島小学校	100人
広島市立安東小学校	100人
広島市立比治山小学校	70人
あさきたネット※	40人

※広島市安佐北区可部において、インターネットを利用した地域コミュニティーの活性化を目指す市民団体

●主催
特定非営利活動法人 中国・四国インターネット協議会
ライブ!エクリプス実行委員会

●協力企業・団体等
西日本電信電話株式会社
沖電気工業株式会社
株式会社日立製作所
日商エレクトロニクス株式会社
北辰映電株式会社
広島市立大学
広島大学
安田女子大学

<用語解説>

○特定非営利活動法人 中国・四国インターネット協議会
中国・四国インターネット協議会(CSI)は、1993年3月に設立され広島を中心に活動を展開してきた、学術系地域インターネット運営組織。主として大学や研究機関を対象として、学術・研究・教育及びその支援を目的としたコンピュータネットワーク利用のためのインターネット接続を提供するかたわら、インターネットの技術および利用に関する啓発・普及、インターネット接続技術および利用技術に関する研究・開発およびその支援や学校教育へのインターネット利用の支援など、当地域におけるネットワークコミュニティーの健全な発展への努力を通じて地域社会へ貢献している。1999年9月より特定非営利活動法人(NPO法人)。

○ギガビットネットワーク(JGN)
通信・放送機構が超高速光ファイバ通信網(ギガビットネットワーク通信回線)と共同利用型研究開発施設(ギガビットラボ)を整備し、平成15年度末までの間、大学、研究機関、地方自治体、企業等に開放するもの。これにより、光ファイバ社会の早期実現に資する研究開発を促進する。

○情報トライアングル
広島県が整備する情報通信基盤。急速に進展する情報通信技術を活用し、研究開発機関や各種公的機関をネットワーク化することにより、科学技術の進展や高度情報化に対応した地

域づくりを推進し、地域経済発展のポテンシャルを高めるとともに、広島県全体の情報通信ネットワークの整備において核となる基盤の形成を図るため、広島、呉、東広島の3都市を光ファイバで結ぶ。平成12年度からネットワーク利用実験が開始された。

○MPEG2 (Moving Picture Experts Group 2)

動画像を蓄積・伝送するための圧縮技術のひとつ。画像フレーム間の差分情報を元に圧縮処理を行うことで、地上波放送(NTSC)と同等の品質を6Mbps程度の伝送帯域で実現している。

<用語解説>

○特定非営利活動法人 中国・四国インターネット協議会(CSI)

中国・四国インターネット協議会は、1993年3月に設立され広島を中心に活動を展開してきた、学術系地域インターネット運営組織。主として大学や研究機関を対象として、学術・研究・教育及びその支援を目的としたコンピュータネットワーク利用のためのインターネット接続を提供するかたわら、インターネットの技術およびその支援や学校教育へのインターネット接続技術および利用技術に関する研究・開発およびその支援や学校教育へのインターネット利用の支援など、当地域におけるネットワークコミュニティの健全な発展への努力を通じて地域社会へ貢献している。1999年9月より特定非営利活動法人(NPO法人)。

○ギガビットネットワーク(JGN)

通信・放送機構が、超高速光ファイバ通信網(ギガビットネットワーク通信回線)と共同利用型研究開発施設(ギガビットラボ)を整備し、平成15年度末までの間、大学、研究機関、地方自治体、企業等に開放するもの。これにより、光ファイバ社会の早期実現に資する研究開発を促進する。

○情報トライアングル

広島県が整備する情報通信基盤。急速に進展する情報通信技術を活用し、研究開発機関や各種公的機関をネットワーク化することにより、科学技術の進展や高度情報化に対応した地域づくりを推進し、地域経済発展のポテンシャルを高めるとともに、広島県全体の情報通信ネットワークの整備において核となる基盤の形成を図るため、広島、呉、東広島の3都市を光ファイバーで結ぶ。平成12年度からネットワーク利用実験が開始された。

○MPEG2 (Moving Picture Experts Group 2)

動画像を蓄積・伝送するための圧縮技術のひとつ。画像フレーム間の差分情報を元に圧縮処理を行うことで、地上波放送(NTSC)と同等の品質を 6Mbps 程度の伝送帯域で実現している。

○日本学術振興会 インターネット技術第163委員会(ITRC)

インターネットに関する技術研究及びその応用に携わる幅広い層の研究者・技術者に交流の場を提供し、最先端技術の研究開発を促進することを目的とし、日本学術振興会の産学協力研究委員会として1996年7月に設置された。

以上

【別紙】

●テーマ曲「Mirabilia」について

今回の日食のために作られた新曲です。タイトル「Mirabilia」は、ラテン語で「ミラクル」のこと。作曲は甲斐恵美子、作詩はさづかるりこです。ライブ中継で流すための音源は、6月12日のトラペジウムライブ(会場:東京・六本木サテンドール)で収録します。

Mirabilia が公に演奏されるのはこのライブが最初です。このライブはトラペジウムのミニアルバム「エオスの涙」の発売記念ライブでもあります。「エオスの涙」は今年1月10日の皆既月食をインターネット中継したLIVE! ECLIPSE 2001 Lunar のテーマ曲がそのままアルバムに名になっています。

●ヒーリング・ジャズ・グループ「トラペジウム」について

LIVE! ECLIPSE 2001 Lunar のテーマ曲録音のために尾久土正己(みさと天文台)によって結成されたヒーリング・ジャズ・グループ。メンバーは甲斐恵美子(ピアノ)、中谷泰子(ボーカル)、山田晃路(ベース)、吉尾公弘(ドラムス)の4人。今回のテーマ曲 Mirabilia を録音するライブにはゲストとして辻邦博(ギター)が参加します。トラペジウムが演奏する曲はMirabilia以外にもライブ中継で使われます。ジンバブエ観測隊にはメンバーの甲斐恵美子、中谷泰子が同行し、皆既日食が終わった後、生演奏をする予定です。もちろん、この模様もインターネットでライブ中継します。なお、トラペジウムが所属するレーベル“Lyra Records”は、尾久土正己がプロデュースする独立系レーベルです。

●アーティスト紹介

甲斐恵美子(ピアノ)

高3から自己のピアノトリオを結成。70年代には、マーサ三宅の伴奏を務める。作曲も得意とし、多くのオリジナルを書き、発表したアルバムも多数。

中谷泰子(ボーカル)

武庫川女子大学声楽科、同専攻科卒。クラシック音楽勉強中に磨いた透き通った美しい高音を、繊細に、そして力強く歌うスタイルは国内では貴重な存在。

山田晃路(ベース)

早稲田大学ジャズ研でベースを始める。N響瀬戸川道男氏、斎藤輝彦氏にクラシック奏法を師事。ジャズからクラシック調、民族音楽調の曲まで幅広く演奏。

吉尾公弘(ドラムス)

札幌出身。TV朝日「題名のない音楽界」に度々出演。クラシックオーケストラとも共演する。作曲家、編曲家としても活躍するなど、幅広い才能を発揮。

以上